

畑の状態いつでも把握

センサー測定値 スマホで確認

IT企業と共同開発

有明高専

大牟田市萩尾町、有明工業高等専門学校の特命助教、野口卓朗さんと学生がIT企業、セラクと共同研究して畑の水分量などをセンサーで測定するシステムを構築。玉名市の畑で実証実験を進めている。

野口さんは寄附講座「人工知能・ビジネス講座（木村情報技術）」の特命助教。同校では2015年から、東日本大震災の津波被災農

「クラウド」を開発。スマートフォンなどで各種データをみることもできる専用のアプリも開発した。共同研究は17年9月にスタート。同校の無線センサーネットワークシステムとセラクの「みどりクラウド」

を組み合わせ、新たなシステムを構築。離れた所からも畑の状態を見ることができるようになった。

今年9月には、学生らによって玉名市横島町のミニトマトハウスでセンサーの設置作業が行われた。今後、データ収集を続けること

で、最適な水量や肥料の量が分かるようになり、将来的には収量や品質の向上につながることも期待されるという。

作業に参加した専攻科2



ビニールハウスにセンサーを設置する学生たち

年の松本祐弥さん(22)は「実証実験を行うことで研究室では想定しきれないトラブルもある。それを解決していくのは楽しい」と話した。野口さんは「蓄積したデータを人工知能で解析することで何か農家にフィードバックできればと考えている。実験を通して学生にとっても農家のことを理解することができる。人材育成になれば」と期待を込めた。(矢野 大輔)